ようこそ、バリアフリー絵本の世界へ

―Picture Books for All―

攪上　久子

はじめに

「ここにあるのは、みーんなわたしの　本！」

１．さわる絵本の登場　―絵本は視覚文化でないといけない？

（手作りの）さわる絵本（盲学校教師・親・ボランティア）

はじめてこの本を見たときにあげた喜びの声は今でも忘れることが出来ない

視覚イメージの必要のない絵本　『これ、なあに？』

ザラザラくん　ポツポツちゃん　シマシマくん　バラバラくん　ツルツルくん

２．布絵本の誕生　―なぜ布？

布絵本の可能性

おはなしの楽しさを―長崎源之助さんが作った布絵本

いろいろな子が離れ離れにならない保育の中の布絵本

ふたりで読む布絵本

３．見えない親が子に絵本を読んであげたい

てんやく絵本の誕生→てんじつきさわるえほんの出版

はじめてのてんやく絵本が完成したとき、５歳と２歳の息子が、絵本を手に、飛び跳ねながら私のところにやってきて、「読んで、読んで」とせがみ、二人が両側から私の膝に乗ってきた。その１冊を、繰り返し、何度読んだかわからない‥

４．絵本の中の鏡に自分が映っている？

絵本が描く社会に自分が存在している？

５．ひとりひとりが迎え入れられる絵本の世界

おわりに

絵本の「よろこび」の体験をすべての子どもに！